

北区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
子ども防災キャンプ事業		北区役所			
事業目的	事業内容	活動指標			H30
北区の小学生が防災について楽しみながら学び、体験することで、いざというときに自分の身を自分で守る(自助)ことや、子どもたちができること(共助)について、考えるきっかけとすることを目的とする。	小学生(4~6年)を対象に、区役所を擬似避難所に設定して、非常食体験、段ボールベッド組立体験など防災をテーマに宿泊体験を行う。 合わせて、広く区民も参加が可能な公開講座を行う。	参加児童満足度	—	—	100%
		参加人数/募集人数	—	—	33名/30名
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
<input type="radio"/> 区が地域防災力向上のための事業を行うことは妥当である。	<input checked="" type="radio"/> 北区自主防災会のスタッフによる運営や、日本防災士会によるパネル展示、防災事業を行っているNPOや大学の学生ボランティアによる進行など、連携しながら行った。	<input checked="" type="radio"/> 防災について学ぶだけでなく、学校を超えたつながりづくりの形成の場となった。 ・事後に保護者アンケートを実施し、参加者が学んだことなどを家庭で話したという意見が多数あり、防災に関する情報を共有することができた。	<input type="radio"/>	・各種団体と役割を分担して実施することで、充実した内容にすることができ、また、団体との関係の強化を図ることができた。	
⑤自立発展性	総合評価				
<input type="radio"/> 今回の事業はモデルケース的な位置付けとし、今後、地域で防災訓練等に取り入れることで、地域の特性に応じた、より効果的な訓練となり、自立発展につながる。	<input checked="" type="radio"/> ・募集人数を上回る申込があり、区民の防災に対する関心の高さを知ることができた。 ・防災・減災に対する意識の向上だけでなく、学校を超えたつながりづくりの形成の場となった。 ・アンケートで「学んだことを災害の時に活かしていきたい。」などの意見を多数いただき、参加者から好評を得た。 ・各種団体と協働で実施したことにより、関係の強化や防災に関する情報の共有を図ることができた。				
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 元直し 廃止	・災害時における避難所の運営は、地域住民が主体となって行っていく必要があり、従来より各地域では自主防災訓練を実施されているところである。 ・今回の事業はモデルケース的な位置付けとして区役所が実施したが、今後は、実際に避難所となる学校の体育館を使用して、地域の自主防災組織が主体となって訓練を行うことが重要である。 ・作成したマニュアルを地域が活用して取り組むことで、さらなる地域の防災力の向上を図ることができる。				